

## 単元名 地域の一員として将来の生き方を考える

第2学年「地域を学ぶ」

### 1 単元のねらい

地域の特産である「ころ柿」を通して、地域のころ柿作りに対する取組や思いに気づき、目的や課題に応じて手段を選択し、適切な方法で情報を収集する。また、探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴や良さを理解することの大切さを感じながら生活する。

### 2 単元の目標

職場体験等を通して、地域や働くこと、職業についての知識・理解を深め、自ら課題を見つけ主体的に判断し、考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の人々のころ柿作りへの思いについて理解している。	④解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を考えている。	⑧探究的な活動を通して、自分の生活及び地域との関わりを見直し、自分の特徴やよさを理解しようとしている。
②地域の人と分かりやすい話し方をしたり、情報交換をしたりし、適切な関わりについて理解している。	⑤目的に応じて手段を選択し、適切な方法で情報を収集し蓄積している。	⑨自他のよさを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組もうとしている。
③地域の職業について調べることを通して、その地域で探究的に学んだ成果を身に付けている。	⑥調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的、意図に応じて論理的に表現している。	
	⑦問題状況における事実や関係を把握し、分類して多様な情報にある特徴を見つけている。	



### ポイント①

### 4 題材について

生徒が生活する甲州市の本地区では「ころ柿」が特産であり、地場産業として根付いている。11月には各農家でころ柿づくりが行われ「オレンジのカーテン」が街中に広がる。本中学校学区にある2つの小学校では「ころ柿集会」が行われ、生徒は小学校でもころ柿について学習をしている。地域に生きる中学生として、「ころ柿」について探究課題を設定し、探究することで地域理解と自己との関わりについて考えてもらいたい。

5 指導と評価の計画（全 25 時間）

小単元名（時数）	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1. ころ柿職場体験学習について知る（3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習の意義と概要を知る。</li> <li>・地域の特産である「ころ柿」について主体的に学習する。</li> </ul>	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
2. 目標・課題解決に向けた研究計画を立てる（2）[本時]	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験学習の目標・課題を立てる。</li> <li>・職場体験学習の目標・課題を解決するために研究計画を立てる。</li> </ul>		④	⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
3. 研究計画に基づき調べ学習をする（5）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ころ柿」について学ぶことにより、地域について知るとともに将来について考える。</li> <li>・職場体験学習に向けての事前学習をする。</li> </ul>		⑤		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・スライド</li> </ul>
4. 職業ガイダンスを通して働く意義について学習する（4）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働く人から、それぞれの職業について話を聞くことで働く意義について考える。</li> <li>・様々な職業に触れることで働く意義について知る。</li> </ul>	②			<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
5. 職場体験学習を通して、地域について理解を深める（5）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ころ柿について理解を深め、地域について知るとともに、理解を深める。</li> <li>・ころ柿について理解を深め、学んだこと考えたことをまとめる。</li> </ul>		⑥	⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・ワークシート</li> <li>・礼状</li> </ul>
6. 職場体験学習についてのまとめ・発表を通して自己の考えを深める（6）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験してきたことについてまとめ、自他の発表の内容について比較することを通して、自己の考えを深める。</li> <li>・職場体験学習について、考えをまとめる。お互いの職場体験学習と調べ学習の成果を発表する。</li> </ul>	③	⑦	⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表内容</li> <li>・成果物（スライド）</li> </ul>

 **ポイント 2**

6 学習指導過程

	学習内容・学習活動	指導上の留意点	知	思	態	評価方法
導入 (5分)	1 本時の学習課題をつかむ。					
	ころ柿づくりについて、探究したい課題を考える。					
	2 小学校で学習した「ころ柿」づくりについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での学習や、前時での学習を思い出させる。</li> </ul>				



私の研究テーマは 美味しいころ柿を作る紙袋！

今回の授業では「自他の良さをい  
かしながら課題の解決に向けて、探  
究活動に取り組む」ことを評価のポ  
イントにしている。この生徒のウェ  
ビングマップを基にしたこのテー  
マから、自分の知識と他者（農家の  
方）から得る発見を組み合わせ、良  
さを生かしながら、探究活動に取り  
組もうとする姿勢を評価すること  
ができる。



ポイント 3

3. 自分の研究テーマを調べていくためにはどのような手段があるか考えてみよう。  
《早くできた人はチャレンジしてみよう》

・ 柿を作る家。土地を地形図で調べる  
・ 作っている人。昔と今で作っている人の人数や年齢の  
差を調べる。また、お話を調べる。

設定した研究テーマについてはインターネッ  
トだけでなく、文献や実際に作業をしている農  
家の人に聞いてみたいという記述が多く、探究  
活動について主体的に取り組もうとしている様  
子が見取ることができる。



ポイント 3

## 7 まとめ

生徒には本時の授業を通して、地域にある特産品「ころ柿」に触れることで、「地域のころ柿づくりの思い」に気付くこと、「地域との関わりに気付く」こと、「自ら解決してみたい課題を設定することができるようになってもらいたい」と思っていた。そのため「ウェビングマップ」を活用しながら、生徒自身のころ柿について知っていることなどを取り上げていった。発問だけでは思考の広がりが見られない生徒も、思考ツールを活用することで、自らの考えを深め、疑問がわき、その疑問を研究テーマにする生徒などがいた。また、柿の渋みを生み出すものは何か、友人と対話をしながら考える生徒は、研究テーマを「ころ柿の栄養価」について考えていくことにしていた。

本時の指導案作成を通して、評価場面を明確にすることを意識した。そのため、授業中での生徒の活動について評価がしやすく、学びを見取ることができた。授業の中ではウェビングマップを上手く活用できず思考が広まらない生徒もいた。そういった生徒には思考ツールを活用する例を示すことも効果的であった。生徒の感想からは、「家で、ころ柿を作っているが、そんなに興味がなかった。この授業を通して、少しころ柿について興味をもてた。松里との関係についてもっと調べてみたい。」「ウェビングマップを作ることで、ころ柿づくりについて疑問がでてきた」という感想も多かった。



# 職場体験学習 —ころ柿体験に向けて—

2年 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. ころ柿について、また関係性の深い（自分の）地区について知っていることを挙げてみよう。

2. ウェビングマップを利用し、自分の研究テーマを決めよう。



私の研究テーマは \_\_\_\_\_

3. 自分の研究テーマを調べていくためにはどのような手段があるか考えてみよう。  
《早くできた人はチャレンジしてみよう》

4. 今日の授業で考えたことを書こう。

<hr/> <hr/> <hr/>
-------------------